

毎月最終土曜日に掲載予定

瀧下和之「桃太郎図ノ番外」より「鬼ヶ島でオニゴッコ。」メナード美術館初公開コレクション



物語から広がる発想

「鬼ヶ島でオニゴッコ。」
「(二〇一四年)の場面では、
ユーモラスな愛すべき鬼たちが、桃太郎とは関係なく命を吹き込まれ、主役としていきいきと活躍する。鬼は、徳川宗達の風神雷神をも思い出させ、琳派の装飾技法へのオマージュも見られて、見る人をおきさせない。

「えー」から始まる、ストーリー。

「鬼ヶ島でオニゴッコ。」
を自由にくぐらませた作品もある。もともとなる物語も、ギリシャ神話からアラビアンナイト、ピノキオなど多岐にわたる。高村光太郎のように、詩作と美術の両面で独自の境地を開いた芸術家もいる。このように、本展では美術と文学の深い関係が、幅広く取り上げられている。

メナード美術館 0568(75)5787 9月24日まで

サヴィニヤック バリにかけたポスターの魔法

瀧下和之は、現在活躍中の画家である。彼は、桃太郎の説話から派生した鬼を、自分のキャラクターとして育ててきた。「桃太郎図ノ番外」と題されたシリーズは、絵本の原画である。そのひとつ、

「浅野和生」愛知教育大教授